

## 単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりに気付くとともに、呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない声で歌う技術を身に付けることができる。
- (2) リズムや音の重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、まとまりを意識した音楽をつくることについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 言葉の面白さを生かしたボイスアンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

04070101\_001

【教材名】早口（歌唱） 早口言葉でラップを楽しもう！（音楽づくり）

(P. 6～P. 7)

【準備等】範唱CD，メトロノーム，打楽器，キーボード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 はっきりと発音しながら、楽しく発声練習をしたり、速度を変えたり輪唱したりして「早口」を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拍を感じながら歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範唱を聴き、曲に慣れる。</li> </ul> </li> <li>○ 音程や声の出し方を意識したり、声を合わせる楽しさを感じ取ったりしながら歌詞唱する。</li> <li>○ 速度を変えて、歌詞唱をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゆっくり</li> <li>・ 速く</li> <li>・ だんだん速く など</li> </ul> </li> <li>○ 互いのパートを聴き合いながら、輪唱を楽しむ。</li> </ul> <p>2 言葉のリズムの面白さを感じ取りながら、拍の流れののって「早口ラップ」のボイスアンサンブルを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ はっきりした発音で、拍にのって早口言葉を唱える。</li> <li>○ 休符の入れ方を工夫し、拍にのって早口言葉を唱える。</li> <li>○ 一人とみんなに分かれて、呼び掛け合いで表現したり、二つの早口を同時に唱えて言葉の重なりを楽しんだりする。</li> <li>○ 伴奏となる足踏みや手拍子のリズムやオスティナートとなる反復の言葉など、音楽の仕組みを生かし、まとまりを意識した音楽をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口形、表情を意識し、言葉が伝わるようにさせる。</li> <li>・ 口がしっかり動いているか、互いに見合ったり、鏡を見て自分で確認をしたりするとよい。</li> <li>・ [n] の発音の部分だけ歌ったり、4分音符だけ歌ったりするなどのゲーム的な活動で歌うことで、鼻腔に響かせたり、正しい音程で歌ったりすることを意識させる。</li> <li>・ メトロノームに合わせてたり、指揮によって速度を変化させたりするなど、速度変化の面白さを感じ取らせる。</li> <li>・ 授業の導入で歌う常時活動のレパートリーとし、歌い慣れてきたら二人組でカノンをする活動を取り入れてもよい。</li> <li>【共通事項】音の重なり</li> <li>【評】曲想と旋律など音楽の構造について捉える活動を通して「知識」を評価する。</li> <li>【評】呼吸及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</li> <li>・ はっきりした発音を意識させ、いろいろな早口言葉を楽しませる。</li> <li>・ 早口言葉を、ゆっくりから始めてだんだん速く唱えたり、連続して繰り返し唱えたりして楽しく意欲をもって活動できるようにする。</li> <li>・ 休符の入れ方を工夫し、一つの早口言葉からいろいろな唱え方を試し、言葉のリズムを工夫させる。</li> <li>・ はっきりと拍の流れをつかませるために、打楽器やキーボードのリズムボックスなどを使ってもよい。</li> <li>・ 曲の進め方やリズムの組み合わせを考え、決定させる。</li> <li>・ 音楽を構成する際、以下のように役割を分担するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 足踏み・手拍子（伴奏）</li> <li>○ 早口言葉（主役）</li> <li>○ 繰り返しの言葉（飾り＝オスティナート）</li> </ul> </li> <li>・ 繰り返し回数や全体の小節数など、つくる音楽の全体像を提示し、見通しをもたせるとよい。</li> <li>【評】リズムや音の重なりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】言葉の面白さを生かして音楽をつくる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」</li> </ul>

を評価する。

【 備 考 】